今週の
倫理

2024. 3. 2〜3. 8

3月のテーマ ｜ 地球倫理

1375号

毎月第一週に配信する「今週の倫理」では、倫理研究所第二代理事長・丸山竹秋（一九二一―一九九九）のことばを掲載いたします。

人間は何のために生まれそして生きているのか。

私たちは地球をきたなくするために、醜悪にするために生きているのではない。あたりまえではないか。

人間以外の動物は地球をよごさない。一時的によごすようにみえても、原野や海や水の中でちゃんときれいにされ、調和を保っている。イナゴの大群が発生して緑を食いつくし、大地をいためつけるようにみえても、やがて死滅して大地に還元される。蟻の大群もその地方の生きものの調和を崩すことはしないし、有毒細菌も、大密林の繁茂も、それら自身で相互依存の体制を乱すことはしないようである。そうして彼らは彼らなりに地球の、大自然の中に調和ある生活をいとなんでいる。

私たちは一般の動物などに対し偉そうにしているかもしれない。いや実際そうであろう。飼育してやっているとうぬぼれているのではないか。人間には、たしかに一般の動物（ひろく生物）に較べて、はるかに醜悪な面があるのである。地球をよごし、こわしてほったらかしにする面と、ウソをつき、ごまかし、他に迷惑をかけ、他を憎み、自分のためには他をうち倒し、殺したりする非道な行為などいろいろである。

地球の華

丸山竹秋

ガソリンを燃やせば、それだけ大気がよごれるのは仕方がない。しかしドライバーが心の底で、さらに良い機械が発明されることを念じ、すこしでもむだな運転をつつしむように工夫することは、「美しくする」ことに通じよう。きたない地球をほったらかしにしておくのと、どちらが良いのか。

良い持味は、美しく、りっぱにしようとするところから発揮される。きたなくする、人に迷惑をかける、悪いことをすることからは、悪い味しか出てこない。持味には悪いものもある。人間にとっての毒キノコは、その毒が持味なのである。だから、良い持味つまり自分の個性を発揮させようとするためには、美しいこと、良いこと、人のためになることなどをしようとつとめることだ。地球は人間も棲んでいるから、地球を美しくするとは、人間を美しくすることである。地球をりっぱにするとは、人間をりっぱにすることとなり、その人間の中には当然自分自身も含まれるのである。

まさに地球は大活動をし、変転している。まさに生きものである。この地球をうち壊そうと毎日働いているのが人間つまり私たち自身であるといって良い。まさに悪の権化（化身）である。バカの骨頂（張本人）といわれても、抗弁できないであろう。

地球倫理とは、地球を愛し、敬し、あがめる倫理のことである。今まさに人類は、個々の人間の華を美しく咲かせて、地球を楽園にしなければならぬ大使命を持っている。

（『よろこんで生きる』より）

え・城谷俊也

一般社団法人倫理研究所法人局